

第1回現地研修会「夷隅川河口のラグーン干潟と海岸」を開催しました

“初夏の河口干潟と海岸に生息する生きものを観察する”をテーマとした現地研修会を開催しました。強い風と日射の中、ご参加いただいた25名の団員の方ありがとうございました。なんと、当日7月6日（土）に関東地方は梅雨明けしました。

「夷隅川河口干潟」は、環境省の日本の重要湿地500の一つに選ばれており、干潟の生態系を支える多くの生物種が見られます。また、日在浦海岸はアカウミガメが産卵に上陸するため、いすみ市は平成19年（2007年）にウミガメ保護条例を制定し、市とボランティアにより保護活動が行われています。

今回の研修の目的の一つは、河川は上流から河口そして海までつながっているため、流域全体で生態系や環境の整備や保全を考えることが大切であると、観察を通して団員に伝えることでした。

午前中の観察では、河口のラグーン干潟において、カニやスナモグリはじめとした甲殻類や魚類、貝類について、実際に団員が生きものを探し出し、センター職員からは生態や観察方法を説明しました。午後の観察では、海岸植生の特徴と、河口対岸のコアジサシの営巣地やアカウミガメの産卵地（今回は産卵床は見られませんでした）について解説しました。また、上流地域で繁茂する竹が倒れて川へ流れるなど、流木竹が海岸に多く打ち上げられており、アカウミガメが産卵に上陸する際に障害物となるため、地域の保全活動の方々がゴミや流木竹を集めて清掃している跡が見られました。

河口とラグーン干潟では、カニが調査団を大歓迎してくれました。海岸は、コアジサシの営巣地やアカウミガメの産卵地です。営巣地には繁殖時期が過ぎるまで、立ち入ることなく、見守りましょう。

『観察した生きもの』（下見時に観察した生きものが一部含まれています）

鳥類：コアジサシ（A）、ウミネコ、シロチドリ（A）、ダイサギ、チュウサギ（B）、ヒバリ、セッカ、トビ、コブハクチョウ（外来）
（下見時には、ミサゴ、オオミズナギドリ、ハシボソミズナギドリ落鳥、ホオジロ）

節足動物：ニホンスナモグリ 魚類：ヒモハゼ、ボラの稚魚、コノシロの稚魚、ハゼ類（アシシロハゼ等）

カニ：ウモレベンケイガニ（A）、ヤマトオサガニ、モクズガニ、アカテガニ、アシハラガニ、ベンケイガニ（B）、ケフサイソガニ、クロベンケイガニ、スナガニ、コメツキガニ

昆虫：キマワリ、ヤマトマダラバッタ（A）、マダラバッタ、ウバタマムシ、シロスジコガネ、アオスジアゲハ、クロバネツリアブ、ヒガシキリギリス、ヒメギス、ハサミムシの一種、オオモンツチバチ

貝類（貝殻含む）：アカニシ、マテガイ、バテイラ、イソシジミ、マガキ、アサリ、ツメタガイ、（下見時には、ソトオリガイ）

植物：ハマヒルガオ、ハマボウフウ、ハマニガナ、ハマゴウ、ハマダイコン、ケカモノハシ、ハマオモト、テリハノイバラ、ラセイタソウ、コウボウムギ、ハマグルマ（ネコノシタ）、オニシバ、ツワブキ、シャリンバイ、マルバアキグミ、ホタルブクロ、ハマエンドウ、アカメガシワ、クルミの実と実生、トベラ、ヤブニッケイ、ヤブツバキ、サルトリイバラ

その他：タヌキの溜め糞

千葉県 RDB：A 最重要保護生物、B 重要保護生物

現地研修会の様子と観察した生きもの



夷隅川河口での観察



カニ獲り名人が大活躍



干潟の生態系を支える生きもの



マテガイ



ニホンスナモグリ



ハマボウフウとネコノシタ



オオモンツチバチ



シロスジコガネ



コメツキガニ



アカテガニ (D)



アシハラガニ (D)



スナガニ



ケフサイソガニ



ヤマトオサガニ (D)

干潟は、潮の満ち引きによって、海面下になったり砂泥地になったりします。干潟の泥には川から流れてくる有機物が沢山あり、カニ、貝類、ゴカイなど多くの生きものがいます。アシ原から砂泥地そして干潮線までには、多くの種類のカニがいます。アシ原の中にはアシハラガニが、干潟の上方にはコメツキガニ、チゴガニ、最低干潮線の辺りにはヤマトオサガニが棲み分けています。

「キリギリス」「クツワムシ」の生息情報を求めています

「キリギリス」の報告は、鴨川市、いすみ市の海岸 2 件だけです。キリギリスは減っているのか生息地が少ないのか分かっていません。写真を撮られた場合は調査団へ報告ください。似ている種は、ヤブキリ、ハヤシノウマオイ（鳴き声スーチョン）です。クツワムシは「ガチャガチャ・・・」と大きな鳴き声のため確認が容易ですが、夜間の気温が高いと鳴かないようです。



「ヒガシキリギリス」

草丈が高めの草原に生息する。肉食性で昆虫を捕えて食べる。オスは前翅に発音器があり「チョン、ギース」と暑い日中から大きく鳴くため、生息が確認しやすい。アゴが強いので、咬まれると痛い。



「クツワムシ (C)」 (a0449)

林縁や河川敷など深い草叢に生息する。夜行性で 8 月中旬からガチャガチャと連続した大きい声で鳴く。クズの葉を好むとされる。生息地が分断されると一気に個体数が激減するため、生息地の里山保全や維持管理が大切である。

大きなガ（蛾）を発見したら調べてみましょう

大型のヤマムガの仲間が減少しているようです。写真の 5 種と他にクスサンが生息しています。蛾（成虫）には口が無く餌を食べずに 2 週間しか生きられません。じっくり観察して見守りましょう。成虫は大きくて驚きますが、成虫、幼虫とも毒はありません。クスサンはウスタビガに似ていますが、翅の円紋は後ろの 2 つのみです。オオミズアオは初夏と秋に蛾が観察されます。他の種は晩夏から晩秋に蛾が見られます。

オオミズアオは右の写真：開長約 12cm



a0285



a0034

「シンジュサン」

開長 13cm。西表島などに生息している「ヨナグニサン」の近縁種で、翅が非常に幅広く存在感がある。



a0034

「ウスタビガ」

開長 11cm。翅にある紋は透明で、光が当たると銀色に見える。右は繭。



a0512

「ヤマムガ」

開長 15cm 超の本州最大の蛾。翅の紋は中央に黒点がある。「天蚕（テンサン）」。本種の繭からとった繊維は生糸のダイヤといわれる。



a0389

「ヒメヤマムコ」

開長 10cm。ヤマムガ科の中では小振り。翅が赤紫に見えることがある。

<これからの季節に観察できる生きもの>

「a0***」は写真撮影者の調査団員番号

○調査対象種：ヒガンバナ開花、リンドウ、モズの高鳴き

○調査対象種以外（同定が難しいため、報告には写真が必要です）

* 渡り鳥：シギ、チドリ類。ヒタキ類。猛禽類 など * 昆虫など：クツワムシなど鳴く虫。ヤマムガなど大型の蛾

* 希少生物（生息・生育数が減少している生物）や外来生物（特定外来生物・要注意外来生物）の報告も受けています。